

授業科目名：建築・都市デザイン論

科目コード	10X412
配当学年	修士課程・博士後期課程
開講年度・開講期	後期
曜時限	金曜 2 時限
講義室	後期開始時に掲示する
単位数	2
履修者制限	無
授業形態	講義
使用言語	日本語
担当教員 所属・職名・氏名	竹山聖,神吉紀世子,平田晃久

授業の概要・目的

建築・都市のデザイン領域では、デザイン対象を物理的な建築物・工作物・都市施設群に限ってはならず、広く個人や共同体からなる社会のあり方、文化の体系、多様なスケールの自然環境の体系にも連動するなかでの、建築・都市の次の未来を構想し、実態化に導こうとする営為として取り組むものである。ここでデザインに関わる理論は、それぞれの実例事例において直接手掛ける物理的対象物に専らかかるものとして構築しているのではなく、デザインの営為に関わる諸現象の関係性・持続性・真実性を総合的に捉えることにおいて、様々な論争・提案・実践活動が展開している。本講では、とくに、建築・都市のあり方に関わって、優れた先端的なアプローチで手掛けられているデザインの実例をとりあげ、その営為に関わる当事者から学びつつ、ケーススタディを通じて、現代および次代の建築・都市デザインについての議論を行う。

成績評価の方法・観点及び達成度

レポート、及びプロジェクトにより評価する(出席も参考にする)。

到達目標

今日のデザインで求められる総合的なデザイン力を、建築・都市デザインの理論と実践の履修を通して身に付ける。

授業計画と内容

項目	回数	内容説明
デザインの営為に関わる諸現象	2	デザインの営為に関わる諸現象の関係性・持続性・真実性を総合的に捉える理論と営為の履歴と現在について口述する。また、Case Study -1、2、3 の3実例をとりあげる全体像を考察する。
Case Study -1	4	建築・都市のあり方に関わって、優れた先端的なアプローチで手掛けられているデザインの実例をとりあげる。内容にふさわしいゲスト講師を招き、可能であれば踏査をとりいれる。9月頃に本年度の Case3件を公表の予定。
Case Study -2	4	Case Study -1 にひきつづき、実例をとりあげる。
Case Study -3	4	Case Study -1、-2 にひきつづき、実例をとりあげる。
総合討論	1	3つのケーススタディを踏まえ、現代・将来の、建築・都市デザインの可能性(展望あるいは危機など)について総合して論じる

教科書

授業は配付プリント、およびプロジェクターによるスライドを用いて行う。

参考書等

参考書は授業中にその都度紹介し、文献リストも配布する。

履修要件

特に定めない。

授業外学習(予習・復習)等

Case Study については、前もって各自の論点をもって受講することが強く望まれる。関連の資料収集や現地踏査を行うことが望ましい。

その他(オフィスアワー等)

随時、質問等については、メールで kanki@archi.kyoto-u.ac.jp に問い合わせてください。